

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：協同組合土質屋北陸

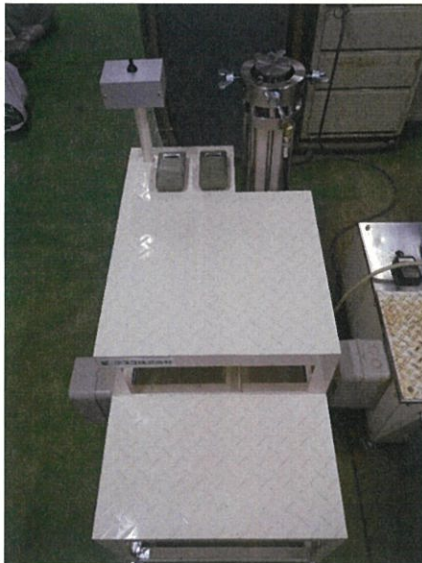
- ・北海道土質試験協同組合
 - ・協同組合土質屋北陸
 - ・関東土質試験協同組合
 - ・中部土質試験協同組合
 - ・協同組合関西地盤環境研究センター
 - ・協同組合岡山県土質試験センター
 - ・協同組合島根県土質技術研究センター
 - ・協同組合広島県土質試験センター
 - ・宮崎県地質調査業協同組合
- なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。

関東土質試験協同組合

mail to : uketuke@kstc.or.jp

新型押し出し機が搬入されました

11月26日に新型押し出し機が搬入されました。旧型押し出し機(1号機)は10年以上も使用していたのですが、7月に油圧ポンプが壊れ修理不能となりました。土質試験を行う上で押し出し機が無いと業務に支障が出るため、当組合では押し出し機を2台保有しております。年間で1000本近くのライナーを抜いているので、押し出し機も大変です。業務に支障が出ないよう機器整備も万全を期しておりますので、安心して御発注願います。



油圧式縦型試料押し出し機(新1号機)



左側:新1号機 右側:2号機

(文責：技術部 石倉 仁士)

協同組合 関西地盤環境研究センター

mail to : info@ks-dositu.or.jp

☆令和2年度3団体合同技術講演会開催報告

コロナ禍の影響で今年度標記技術講演会はweb配信による方法としました。11月～12月の申し込み期間に118名の受講申請があり、配信は12月中の1週間限定としました。

今年のテーマは「さまざまな最前線を視る」と題し、①宇宙線ミュオン粒子を利用した地盤調査：鈴木敬一先生(川崎地質)、②線状降雨帯と災害：田中剛先生(日本気象協会)、③壊れる石垣と壊れない石垣：西形達明先生(関西地盤環境研究センター)の3講演です。

初めてこのような形の講演会として企画し、撮影～受講募集～web配信～CPD付与を専門業者の協力も得て実施できました、今後に活かせればと考えております。

(文責：中山)

透水試験用真空槽と定水位試験容器を導入しました (令和2年5月)

1.導入の経緯

地すべりや斜面崩壊、ダムや堤体からの漏水、河川堤防の浸透破壊などに起因する高透水性地盤に対し、室内透水試験を行う場合、現場密度の状態を保持することが重要であるが、セッティング時の振動や急激な吸引等により、水みちや密度変化による間隙減少を起こす場合がある。これらに対処するため、大学との共同開発により、新たにアクリル製の透水試験用真空槽と定水位試験容器を作製し、導入した。

2.試験機器

アクリル製の透水試験用真空槽と定水位試験容器の仕様

	内径(mm)	高さ(mm)	供試体径(mm)	備考
透水試験用真空槽	280	335	φ150 まで	写真-1
定水位試験容器	280	210	φ150 まで	写真-2

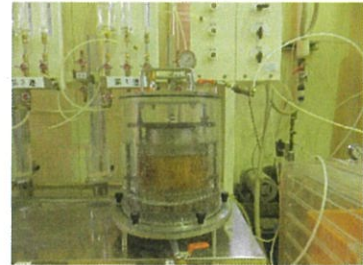


写真-1

特徴は、ステンレス台座と真空槽をネジで固定することにより、取外しができ、飽和後に供試体を移動せずに、定水位試験容器を取付け、測定に入ることができる。

3.導入による効果

飽和から測定のプロセスにおいて、台座から供試体を移動することがないため、振動等の影響が少なく、供試体の土の高構造を保つことができる。また、測定中にも供試体の作製・吸引が別の場所で可能となるため、試験稼働数が増加する。

【参考文献】地盤材料試験の方法と解説, pp.447~461, 2009.



写真-2

(文責：法安章二)

不飽和土の三軸圧縮試験 (JGS0527) について設備を整え、試験業務を行っております。

通常のご依頼いただく三軸試験は飽和していることが前提の試験です。
 この不飽和土の三軸試験は不飽和なままで試験を行うことが出来る試験です。
 不飽和土の三軸試験はかなり昔に基準化されており、土の試験としては既に一般化されたものです。
 北陸ではなかなか需要は無いかもしれませんが、他地域から他組合から問い合わせをいただくことは時々ありました。メーカー側のバージョンアップもあり、現状の装置を少し改良することで試験を行うことが出来るようになりましたので導入させていただきました。



* 写真では試験の特徴はわかりにくいですが、二重セルを用いて体積変化を計測しています。

(文責：江守達弥)